

令和5年度 2学年「ヒューマン基礎」授業報告

◎ 4月18日(火)

「オリエンテーションおよび進路実現について」

担当:本校教員

◇今年度実施の年間計画の確認と概要説明等を行った。

《講義の様子》



《生徒の感想》

これからのヒューマン基礎の授業を通して、1年生の時よりもたくさんの分野をより詳しく学ぶことができるので、毎時間を無駄にしないように、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。また、自分が興味のある保育分野はもちろんのことですが、それ以外の分野でも「ここは保育と繋がりがある」、「これは保育士になった時に役立つ」など、一つ一つ保育と結びつけて、たくさんの知識を得たいと考えます。そして、講義があった日にしっかりと復習をして、メモしていたことをまとめ直し、得た知識を自分のものにできるように頑張っていきます。また、積極的に発表したり、質問したり、意識して取り組んでいきます。またディベートや発表など、人の前に立って話す場面では、自分の意見をしっかりと持ち得るように、そして、他の人の良いところを見つけて、自分の改善に繋がれるようにしていきたいです。

私は今まで勉強をなぜしなければならないのか、勉強をする必要はあるのか、とそればかりを考えていました。しかし、進路について調べていく中で、成績はもちろん、大学・学部・学科により受験する科目が違うことや、評定平均・漢字検定・英語検定など受験に有利になる材料が多くあることを知り、衝撃を受けました。今まで目を背けてきた勉強と向き合わなければならないと思い、まずは1日2時間以上勉強し、漢字検定・英語検定を高校卒業レベルまで取り、受験で有利になるように頑張りたいです。ヒューマン基礎は自分になりたい職業以外についても学ぶことができるので、違いを知ることができたり、勉強になります。どの授業も興味をもって積極的に受けたいと思えます。ヒューマン基礎で学んだことを今後活かせるように頑張りたいです。

今回、2年生になって初めてのヒューマン基礎の授業で今年の計画を見た際に、保育などに通じる内容の実習が多くありました。自分自身の進路につながる部分なので、より多く学びたいと考えています。授業で自分について書いた時、気になるニュースについて問われましたが、私は一つしか書くことができませんでした。今後のためにも、保育に関わることはもちろん、それ以外の内容でも1日に1回はニュースを見て興味を持って生活します。今年は自分の進路を確定し、それに向けて本格的に勉強するので、理解を増やしたいです。また、私は人前で喋ることに苦手意識を持っているので、それを1年間で克服すること、3学期のディベートで多く発表できるように、国語の勉強も頑張りたいです。その他、何か発表などがある際でも自分から前に出て、何事にも積極性を持ち、自分自身をこの1年間で変えていきたいです。

私は、今年は「勉強と部活動の両立」を頑張っていきたいと思えます。勉強面では、去年は平均を下回ってしまう教科があり、単元によって良いものと悪いものがあつたりしてしまいました。そのため、ワークは必ず2周以上するなど工夫して、少なくとも全教科で平均は超えることができるようにします。そして、部活動では副部長という立場になったので、これまで以上に気を引き締めて活動していきたいと考えています。部長をしっかりと支え、去年のような賞状はもらったけど悔いがある状態にならないようにしたいです。

◎ 4月25日(火)

「看護とは～助産師の活動を通して～」

担当: 大手前大学 国際看護学部

吉川 恵理先生, 野間 洸佑先生

◇母性看護の重要性

◇母胎内の赤ちゃんの成長

◇小児に対する応急看護について

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義を通して、看護について詳しく、そして深く学ぶことができました。私が一番印象に残っているお話は、妊婦さんのためにすべてをやるのではなく、退院後の妊婦さんと子どものことを見据えたサポートを行うことが大切だということです。私はこの話を聞いた時、将来の夢である保育士にも求められることだと気づくことができました。子どものために手伝えることは大切ですが、全部を保育士がしてしまうと何の意味もないと改めて知ることができました。実習では、今まで見たことがない女性の子宮や実際の重さの人形などを使って学ぶことができ、事故が起こった時や災害に巻き込まれた時にどのような対応をするべきなのかを経験しながら学ぶことができました。胸骨圧迫は思っていた以上に難しく、自分一人では助けられないと思いました。それでも方法を知っているだけで救うことができる命もあると思うので、もっと知識を身に付け、将来のためになる学びをこれからもしていきたいです。看護という仕事は大変だからこそ感じることでできる喜びや達成感があると知ることができたので、積極的に調べて詳しく知りたいと思いました。

助産師の仕事について少しは知っていましたが、「出産時に2人以上の助産師さんがいるのはなぜなのか」や、出産後の助産師の仕事などはあまり知らなかったもので、今回の講義で学ぶことができ良かったです。吉川先生や野間先生も実際に現場で働いていた方なので、やりがいのことや辛かったことを話されていた時はどんな感じだったのかがすごく伝わりました。小児看護という言葉はよく聞きますが、対象が未成年までで、自分たちも対象であること、その子の家族も対象であることを初めて知りました。体験コーナーでは、赤ちゃんの心肺蘇生法や窒息した時の対処方法を実践し、難しさを痛感しました。赤ちゃんの人形は重たく、赤ちゃんの体勢を変えることも難しかったので、実際に本当の赤ちゃんに対処する時はもっと大変だと感じました。また、妊娠したばかりの子宮と出産前の子宮の大きさが全然違うことを知り驚きました。あんなに大きな子宮が体内にあると考えると、人間の体はすごいと思いました。また、様々な言語の母子手帳を見ることができて良かったです。

今回の講義を受けて、看護の仕事は幅広いと感じました。生まれたての赤ちゃんから大人までの幅広い年代に応じた看護があり、それぞれの接し方が違うからこそコミュニケーション力が必要な仕事だと思いました。助産師の仕事、小児看護の仕事はどちらにも辛いこととやりがいが詰まっていて、魅力的な仕事だと改めて感じることができました。実際に赤ちゃんの模型や妊娠時の子宮に触れてみましたが、どちらも不思議な感じがしました。臨月に近い子宮の模型を実際にお腹にあて、大変さを私は実感しました。また、子どもの誤飲の対処方法に挑戦してみましたが、とても難しかったです。しかし、私の夢は保育士になることなので、将来きっと役立つと考えました。赤ちゃんの模型を抱っこしてみて、自分が思っていた以上に重く、小さいため、何をするときにも丁寧に落ち着いて行動することが大切だと感じました。

看護の仕事はやりがいもありますが、辛いこともたくさんあることを知りました。患者さんが亡くなった時、末期の病気の時、どのようにご家族に伝えるのか、どのように支えるかなどとても難しく、看護の仕事は悩むことも学ぶことも多い仕事だと感じました。

◎ 5月2日(火)6, 7限

「分野別研究レポートを作成しよう」

担当:本校教員

総合ヒューマン類型の生徒が志望する「看護」「医療」「保育」「福祉」分野について、各自の進路に応じたテーマを設定し、それらについて調べ、レポートにしてまとめる。



11～19頁に作品(抜粋)を掲載。

【目標】

自分が志望する分野(職業・学部・学科等)について調べ、進路実現に役立てる。
見やすく、分かりやすい、内容の充実したレポートを作成する。

【要項】

(1) 将来、就職・進学を希望する分野を下記から一つ選ぶ。

ア 看護 イ 医療 ウ 教育・保育 エ 福祉 オ その他

(2) 「分野別研究レポート」に含める項目(★は必ず)

1. 仕事の内容
2. その職業に就くには、必要な資格。適性。
3. その分野を学べる大学・短大・専門学校。
4. 進路先で学べること。主な専門科目とその内容など。取得可能な資格。

★5. 感想

★6. 参考文献(文献名、Webサイト名、URLなど)

【作成上のポイント】

(1) レポート作成にあたっての心構え

- ① 対象者を自覚すること。今回は「異なる進路をめざしている高校2年生」
- ② 興味関心を抱く情報を織り込み、読みやすい構成に工夫する。
(適度な大きさの文字と目立つ見出し、効果的な記事の並べ方、など)
- ③ 丁寧に仕上げる。
- ④ Webサイトを使用は認めるが、ウィキペディア等信憑性に欠けるものは使用しない。
- ⑤ 情報を羅列するのではなく、その中から有用なものをピックアップしてまとめる。
- ⑥ コピペしただけ、そのまま写しただけの内容にならないよう、内容の濃いものを作成する。

(2) レポート作成の原則

- ① A4版プリント(縦向き)。枠内にまとめること。
- ② レポートの枠内の一番上に必ずタイトル・テーマを入れる。
- ③ 文字はボールペン書き・手書き。色鉛筆・カラーペンなどで明るく着色する。
- ④ 適切な図版を挿入する。(読み手の理解を助け、構成のアクセントにもなる。)
- ⑤ 引用・参考にしたWebサイト名、URLや文献名を必ず記入すること。

◎ 5月9日(火)

「絵本の読み聞かせについて～その意義と届け方～」

担当: 甲子園短期大学

木村 雅代先生

◇絵本の大切さについて
◇朗読の基礎的技術と心得

◇絵本・物語の届け方
◇発声練習

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回、講義を受けて、誰もが一度は通る絵本の素晴らしさに改めて気づくと同時に、なぜ年齢を重ねるとともに絵本から離れて行ってしまうのだろうと不思議に思いました。私自身も絵本から離れていましたが、家に帰ってから部屋にある絵本をもう一度読み直し、小さい頃とはまた違った視点から見ることができ、自身の成長を感じることができました。絵本が17世紀からあるなんて想像もしていなかったので、とても驚きました。また、絵本には安心感を与える脳への科学的効果について初めて知りました、昔を思い返してみれば、母や父、祖父母などが絵本を読み聞かせてくれた時に、私はすごい安心感とその絵本の世界に入ってしまうぐらい夢中になっていたことを思い出しました。私は将来、子どもに関わる仕事に就きたいと思っているので、子どもたちがその物語の世界に入ってしまう、また安心感で包み込むことができるような読み聞かせができる人を目指し、意識して練習してみようと思いました。

私は今回の講義を受けて、絵本に対する考え方が変わりました。今までは、ただ絵を見て文字を読むことだけだと思っていました。しかし、小さい頃に読んでもらった絵本や自分で繰り返して読んだ絵本が記憶に残っているのは、愛情をこめて読んでもらっていたり、その絵本に対して思い出があったりするからだということが分かりました。また絵本の読み聞かせでは、声をお腹の中から出すこと、抑揚をつけること、速度などを意識するだけで、魅力的な話し方にもなり、聞き手にも伝わりやすくなると分かりました。ちょっとした間さえも、伝え方、届け方に違いがあることを知りました。また、絵本を子どもに読み聞かせする上で、子供の成長に合わせた絵本を選ぶことも大切で、0歳では絵より音、1歳では好奇心を刺激するものがよく、どのような絵本を読めば楽しんでもらえるかを考えることも大切だと感じました。また、私の将来の夢である看護師も人と関わるということは同じなので、今回の絵本の読み聞かせについてのお話は、一つのコミュニケーションツールとして知ることができて良かったです。

今回の講義で、絵本はただ楽しむだけではなく、語彙力を上げたり、感受性を豊かにさせたり、精神状態を落ち着かせたりするなど、たくさんの効果があることを知りました。私が特に印象に残っているのは、「クシュラの奇跡」の話です。生まれつき病気を抱えていて、余命宣告をされたにも関わらず、両親が絵本を読み続けたことで、言語能力や感受性を持ち、40歳まで生きたということを知り、絵本は薬よりも効果があるのだと思いました。また、読み聞かせは認知症予防に良いということを知りました。他にも、話し方について学び、間や強調の大切さを教えてもらいました。実際に間を置いて話してみたり、強調して言ってみたりして、伝わり方が全く違うということを実感しました。この経験から、これから人と話す時は、間や強調する点を意識していきたいと思います。今回学んだことを忘れず、子どもや高齢者の方に絵本を読む機会があったら、意識しながら行動しようと思います。

◎ 5月23日(火)

「介護予防 ～福祉レクリエーション～」

担当：履正社国際医療スポーツ専門学校

逢阪 幸右先生

◇平均寿命、健康寿命、福祉レクリエーションの目的について

◇福祉レクリエーションの注意点：無理に参加させたりしない。能力を見極めてそれに合った活動をすすめる。

◇レクリエーションの実施：①指導者と対象者の1対1の関係 ②身近な者同士的意思疎通

③小グループで気持ちを1つにする。

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回の講義では介護予防について学びました。私が印象的だったのは、レクリエーションです。私たち若者にとって必要のないもののように感じますが、実際に行くと、友だちとコミュニケーションをとることや、口や手を動かすことで脳を活性化させることができます。そして、自然とみんなが笑顔になります。このように、人を笑顔に出来る職業が、柔道整復師や鍼灸師、理学療法士です。医師や看護師だけでなく、たくさんの職業の方が人々を支えていることが分かり、私もその一員になりたいと感じました。

また、介護予防の重要性が高まっていると教えてもらいました。高齢者の方々と介護予防に携わっている方々の割合が釣り合っていないと思います、それを少しでも軽減できるように、私は祖母に対して介護予防を行いたいと考えています。逢阪先生の講義によって、介護予防がどれだけ大切かが分かりました。家で介護予防について調べたところ、目的として、「一人ひとりの生涯にわたる、生きがいのある生活・自己実現を目指す」と書いてありました。QOLの向上させるためには、一人ひとりが健康に気を付け、正しい生活習慣、適度な運動をすることが大事だと分かりました。私も実際に行いたいと思います。

私は今まで介護とは、高齢者の方のお世話（入浴・食事・排泄）をすることだと思っていました。しかし、今回の講義を通して、介護は高齢者の方たちにとって健康で楽しい人生にしてもらうために、たくさんコミュニケーションをとったり、様々なサービスをしたりする仕事だと知ることができました。日本の平均寿命が高いことは良いことですが、その反面、国民の健康維持が課題となっており、国民の医療費の圧迫が問題視されています。そのため、若いうちから適度な運動を行い、介護予防することが大切だと知りました。

介護予防の一つが福祉レクリエーションです。これは様々な方法で脳の活性化や身体機能の向上・維持を目的としたものです。私たちも実習を通して様々な運動や遊びをしましたが、どれも楽しく、1対1で行うものもあったため、人との関わりを深めることができました。たくさんを知っていく中で一番驚いたことは、人と話して笑うことだけで脳が活性化し、介護予防としても効果があるということです。

今回の講義で、転倒して骨折する人の確率が90歳以上では100%ということ、高齢者の寝たきりになる原因の11.8%が骨折や転倒だと聞き、大変驚きました。これからは祖父母や高齢の方と接する時には、歩くスピードを合わせたり、手を貸したりしていきたいと思います。私は介護予防と聞くと、ラジオ体操などを個人で黙々と行うようなものをイメージしていました。しかし、実際はその真逆で、小グループで試行錯誤したり、協力したり、失敗したとしても笑いになったりするなど、アイスブレイクのすばらしさを初めて実感することができました。顔や手を使い、声を出し、笑うなど楽しみながら予防ができる今回の介護予防が、もっと広まってほしいと感じました。

◎ 5月30日(火)

「コミュニケーションと手話Ⅰ」

担当:伊丹市聴力障害者協会 久保 みどり先生

手話サークルこゆびの会 山内 滋子先生

- ◇聴力に障害が出る原因、聴力障害者のコミュニケーションの方法について
- ◇出会いは挨拶から・・・挨拶の手話表現
- ◇指文字の表現・・・自分の名前を指文字で表現しよう

《講義の様子》



《生徒の感想》

手話を近くで見ることや教えてもらうことなど、めったにできない経験ができてとても良かったです。講義中に、ろう者の方と会話をする手段として指文字や手話以外にも、スマホアプリの「UDトーク」というもので会話ができると聞いて驚きました。ドラマ「silent」の中で登場人物が「UDトーク」を使って会話しているのを見て、私も実際にスマホにアプリを入れていたので、さらに驚きました。

また、実際に手話を教えてもらい、自己紹介は完璧にできるようになりました。他には、「こんばんは」「ごめんさい」「ありがとう」もできるようになりました。現在では、イヤホンなどで大音量で音楽を聴くことで若者が難聴になる確率が高いことを知りました。普段から私もよくイヤホンで音楽を聴いたり、たまに大音量で音楽を聴いたりするので、気を付けようと思いました。今回の手話の講義を受けて、より手話への興味が深まりました。NHKで放送している手話の番組や手話を題材としたドラマなどを見て、もっと手話を勉強していきたいと思います。そして、将来は手話検定などの資格も取得したいと考えています。

私は初めて耳が聞こえない方とお会いしました。高校生になり、ボランティア部に所属してから手話に興味を持ち、少しずつ指文字や手話を覚えていました。しかし、私は一番大切なことを見落としていました。それは、音が聞こえないことです。例えば、チャイムや拍手が聞こえないなど、私にとっては違和感のない日常生活がろう者にとっては新しい場所に行くことがどれだけ大変かを知ることができました。少し気になり、ろう者の通う学校のチャイムを調べてみると、音ではなくランプが光って目で認識できるようになっているそうです。また、私は手話を丸暗記していましたが、すべて由来があることに驚きました。由来を覚えておくと暗記しやすく、見たことのない言葉でも伝わりやすいことがとても良い点だと思いました。手話が分からず話せない時は、筆談やスマホなどでコミュニケーションをとることが大切だと実感しました。

私は今まで難聴の方と会ったことはありましたが、実際に手話を通じて会話をしたのは今回が初めてでした。私が質問を聞きに行った時、久保先生は優しく笑顔で教えてください、とても嬉しかったです。講義の最初はみんな黙ったままでしたが、久保先生がユニークに講義を進めてくださり、楽しく手話について学ぶことができました。私はこの講義を通して、手話は覚えておくべきだと思いました。これからの人生で難聴の方と出会った時、手話ができなくてもジェスチャーや筆談を通じて会話をすることは可能ですが、手話を使って会話をしたほうが、表情や気持ちがより深く伝わると思ったからです。久保先生も手話で「ありがとう」と言われるとうれしい気持ちになるとおっしゃっていたので、手話を活用することは難聴の方に心に寄り添うことにもなると思いました。日常生活で手話を活用できたら良いと思いました。

◎ 6月6日(火)

「コミュニケーションと手話Ⅱ」

担当:伊丹市聴力障害者協会 久保 みどり先生

手話サークルこゆびの会 山内 滋子先生

◇挨拶の復習

◇曜日や名前、誕生日を表す手話単語

◇数詞の表現・・・数字の表し方はソロバンが基本

◇難聴者が日常生活で困ることと工夫について

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

前回に引き続き、今回もたくさんの手話を教えてもらいました。数字や曜日、年号などを教えてもらった中で、数字の「8」を表す手話は小指が思うように曲がらず、難しかったです。水曜日は「水」の手話、木曜日は「木」の手話、金曜日は「お金」の手話など、それぞれ意味を表す手話が使われているので、覚えると得たと思いました。私の身の回りで聴力に障害を持っている人にあまり出会ったことがなく、また出会っていても気づいていない日常生活を送っていましたが、久保先生から生活の中で困ったことを聞いて、アナウンスや放送が聞こえないためにバスから降り遅れるなど、公共交通機関での移動が一番大変であるということを知りました。音が聞こえることが当たり前だと考えていたけれど、それが当たり前ではないことに感謝しなければならぬと思いました。災害時や日常生活の中で、いつ、どこで手話で話しかけられても受け答えができるように、少しずつ手話を勉強していきたいと考えました。

今回の講義で、耳が聞こえなくて困ることについて聞き、自動車や自転車に気をつけなければならないなど、危険と隣り合わせだということを知りました。今では耳が聞こえない人のための取り組みが徐々になされており、電車の中に電光掲示板ができたり、光で教えてくれる機械があったりと、少しでも生活がしやすいようになっていると聞き安心しました。しかし、耳の聞こえない人のために、社会だけが取り組むものではなく、私たちも勉強する必要があります。学校では難聴者への対応などを学ぶ機会が少ないので、もっと授業に取り入れ、全員が手話について学んだり、手話以外の伝え方について学んだりすることが必要だと考えました。

今回の講義では、耳の聞こえない方が普通の生活でどのような事で困っているのかを知ることができました。私はたまに、クラクションをなされている人を見ることがありますが、その人が耳の聞こえない方だったら、と考えたことはありませんでした。しかし、久保先生の話聞いて、耳が聞こえないことはすごく危険なことだと考えさせられました。今では耳の聞こえない人のための道具などが増え、昔よりも便利になったと久保先生はおっしゃっていましたが、車がクラクションを鳴らした時は同時にヘッドライトもつくようにするなど、もっと配慮をすべきだと思いました。

「今」と「今日」という単語は手話で同じだったり、「昭和」という単語は学ランの襟から生まれたり、「卵」は卵を割るような動きだったり、全部の単語に意味や連想できるような動きがあり、とても面白く感じました。また、難聴者が不便に思うことは、ベルやインターホンが聞こえないことなど日常生活にも多数ありますが、緊急時のほうが不便で危険なことが多いことを知りました。前回と今回の講義で難聴や手話、指文字などをたくさん教わり、さらに学習したいと感じるようになりました。

◎ 6月13日(火)

「赤ちゃん先生 ～育児体験～」

担当: NPO 法人「ママの働き方応援隊」阪神校

向井 朋子 先生, ママ講師と赤ちゃん先生8組

◇託児体験

◇ママ講師のキャリアデザイン講話

◇グループでの感想シェア

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の赤ちゃん先生では育児体験をしました。6ヶ月の赤ちゃんを担当させてもらうと知った時、すごく楽しみな気持ちとうまくお世話できるのかの不安な気持ちの両方が混ざり合っていました。実際に赤ちゃんと会ってみると、とても元気でよく笑っていて、だんだんと前向きな気持ちになりました。しかし、実際に泣き出すとどうしたら良いのか分からず、動くことができませんでした。お母さんから、赤ちゃんは言葉は通じなくても、相手の表情などで感情を読み取ることができると教えてもらい、自分の緊張が雰囲気でも赤ちゃんにも伝わってしまったのだと思いました。また、出産方法や病院も人によって合うものが異なると知り、将来、自分が妊娠を経験する時はしっかりと調べて自分と相談しながら選んでいきたいと思いました。

今回の講義を通して、育児の大変さと親の偉大さについて改めて知ることができました。お母さんに育児の大変さについて聞くと、子育てをしていると大変なことが多いが、病気の時やいつもより元気がないと心配になることを知りました。何が一番幸せなのかをお母さんに質問すると、生まれてきた瞬間にまさはることはないが、目が合った時や夜寝ている時に手を握ってくれたことなど、何気ないことが幸せだと言っていました。そうすけくと15分間一緒に遊んでいると、たくさん泣いてしまってどう対応すれば良いか分かりませんでした。しかし、言葉が通じなくても意思疎通ができたと感じました。お母さんを必死に探して、みつけたらびたっと泣き止んで笑顔になっている姿を見て、母は偉大だと思いました。

私は将来、保育の仕事に就きたいと考えているため、今回の赤ちゃん先生をとても楽しみにしていました。私は7カ月のりせちゃんを担当しましたが、コミュニケーションをとることができないため、何をしてあげたら良いのか悩みました。また、今回の講義ではお母さんたちの話を聞くこともできて、とても貴重な時間でした。心に残っているお話は、昔に自分がしてもらいたかったことを、今、子どもにしているということです。この言葉にとっても愛がこもっていると思い、母親になるというのはこういうことなのだと思います。また、お母さんたちは、若い頃に思い描いていた通りにいなくても、結果的に自分のやりたいことができているなら良いとおっしゃっており、とても心強かったです。

今回の赤ちゃん先生を通して学んだことが二つあります。一つ目は、赤ちゃんの表情や動きから気持ちを読み取らなければならないことです。お母さんがいなくなったことが泣いている一番の原因だと思ったので、私は抱っこをしてみたり、体をトントンしてみたりと工夫してみると、赤ちゃんは泣き止んでくれました。お母さんがいなくなったと分かり泣くことは、成長しているからだと教えてもらい驚きました。二つ目は、ダウン症と遺伝子疾患の子どもをもつお母さんから話を聞いて、生まれるまでも生まれてからも何が起るかは分からないということ学びました。たとえ自分の子どもが病気を持っていたとしても、大切な一つの命に変わりはなく、どう過ごすのか、子どもの幸せはなにかを考えることが大事だと思いました。

◎ 6月20日(火)

「子どものための看護について」

担当:大阪青山大学 看護学科

小島 賢子先生

◇小児病棟の看護師の行う観察

◇子どもの入院生活の適応を助ける看護

◇子どもの持つ力を引き出す看護

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回は子どもの看護について学ぶことができ、とても良い機会になりました。大人の看護とは違って、会話がまだできない子どもに対して、泣いている理由を探って原因を明らかにしていくなど、大変さを知ることができました。周りを見ることの大切さや、一人ひとりに寄り添っていくことが子どもの看護に必要なと分かりました。長期入院の子どもたちにも楽しく過ごしてもらえるように環境を整えたり、イベントを行ったりなど、病院でもたくさん考えられていることを知りました。動画を通して、子どもたちが喜んでいる姿や笑顔になっている姿を見て、楽しい気持ちもうれしい気持ちも、病院に通っている子どもも普段は変わらないと知り、協力して子どもを看護していく大切さを知ることができました。

今回の講義を通して、子どもとのコミュニケーションの大切さを改めて知ることができました。私は、小さい頃に子ども病院で受診した際に、壁や床、医療器具にたくさんの動物や人気のキャラクターが描かれていたのを思い出しました。また、子どもは触ったもの、見たものしか自分として認識しておらず、小学生になって自分の体分かるから、小学生以下の子どもは何をされるか分からず不安になったり、泣いたりして抵抗するということが分かりました。日常に近づける遊びや行事を計画することで、子どもはみんな楽しんで、笑顔になっていました。非日常生活から普段の生活を取り戻せるのは、ストレスの発散にもなると分かりました。ファシリティドッグはみんなの癒しで、病気と闘っている子どもたちを笑顔にしていたので、もっとファシリティドッグの存在が広がってほしいです。

私は将来、小児看護師になりたいと考えているので、今回の講義内容はとても興味深かったです。看護師はバイタルサインのチェックだけでなく、一つの現象からたくさんの考え、理由や原因を明らかにすることが仕事の一つと聞き、改めて大変な仕事だと感じました。19歳の男の子の話や子どもの特徴の話を聞いて、人の心を読むようになりたいと思いました。また、現在、日本には大阪母子総合センターのような子ども専門の病院が20~40か所しかないと知り、さらにたくさんできてほしいと思いました。また、プレパレーションという考え方が当たり前ではなかった頃は、医者や看護師だけの都合で治療が行われていて、子どもたちは怖かったらうと思いました。

今回の講義で、看護師は人の心と寄り添いながら仕事をするということが分かりました。ただ看護をするのではなく、コミュニケーションをとることが一番大切だと聞き、私は将来、保育士になりたいので、ただ教えたり遊んだりするのではなく、子どもとのコミュニケーションをとることを大切にしたいと思いました。人は心が動かされる時に感情が表出されると知り、心の動きは見えないけれど心が動いた結果として現象を見ることが出来、相手の心や気持ちを考えることが大切だと感じました。私は医療の仕事と保育の仕事に興味があったので、医療保育士という仕事があることに驚きました。患者さんの状態に合わせてその子に合った関わり方が大切だと知り、人と関わる職業における大切さに気付きました。

◎ 6月27日(火)

「知って！ボラセン！～ボランティア活動のススメ～」

担当：伊丹市社会福祉協議会

伊丹市ボランティア・市民活動センター

戸上 佳也先生, 新海 実莉先生

◇ボランティアセンターについて・主な働き

◇ボランティア活動とは

◇モルック体験

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義では「ボランティア」について学ぶことができました。私の中でのボランティアのイメージは、地域行事に参加したり、募金活動をしたり、災害地域への支援をしたりというものでしたが、さらに多くのボランティアがあることを知りました。ボランティアは自らの強みを見つけて行動することに意味があると分かりました。人よりずば抜けて得意なことを探さなければならないと思っていましたが、「強みは誰でもある」と聞いて、スマートフォンの扱いが得意など、小さなことが強みになると知り驚きました。

また、モルックというゲームを初めてやりましたが、幼い子どもから高齢者の方まで幅広い世代の人がともに遊べて、コミュニケーションもとれるシンプルなルールでした。障がいの有無や年代を問わずに参加できることが最大の魅力だと感じました。私も自ら進んで人のために動ける人になりたいと思いました。

今回の講義を通して、ボランティア活動には多くの場や種類があることを知りました。高齢者施設や障がい者施設、学校、病院などが活動の場としてあり、活動することにより多くの人にボランティアについて知ってもらえる機会が増えると思いました。また、種類では、趣味や特技を生かしたボランティアや、専門技術や経験を活かしたものがあり、自分が好きなことでボランティアに参加できるので、楽しみながら活動できると感じました。そして、通院が難しい高齢者にマッサージをしたり、様々な世代の人と関わりを持つことができるのもボランティア活動の良さだと思いました。

今回の授業で一番印象に残ったのは、モルックについてです。私は初めてモルックという競技自体を知りましたが、実際に行ってみると、簡単そうに見えてすごく難しく、工夫が必要な競技でした。この実習を通して、私は仲間との団結力を得ることができました。勝つためにはどの木を倒すか、あと何点で勝ちだからどの木を倒すかなど、一人だけで考えるのではなくチームで考え、答えを出したことが私には楽しく、そして優勝した時に喜びが倍になりました。個人的にモルックという競技やボランティア活動に興味が増えました。ボランティアの種類はたくさんありますが、その中で趣味や特技を活かした活動でたくさんの人を笑顔にすることができることを知り、私もこれなら気軽に参加できると感じました。

今回の講義を通して、学んだことが二つあります。一つ目は、ボランティアセンターではボランティアコーディネイトという役割があることです。施設や地域の様々な場所でボランティア活動ができるよう準備をしています。地域ボランティアでは高齢者サロンや子ども食堂があることを知りました。高齢者サロンでは、高齢者が一人にならないように一緒に食事をしたり話をしたりします。子ども食堂は伊丹市に17か所あり、子どもにとって身近な存在であることが分かりました。二つ目は、モルックという競技を通して、ゲームは人と人の中を深めたり、楽しく運動ができたりと、日々のストレスの解消にもなるし、健康にも良いものだと分かりました。モルックはとても簡単なルールで、チーム戦もできるため、コミュニケーションをとることができるし、脳の活性化にもつながるため、たくさんのメリットがあると感じました。

◎ 7月18日(火)

「歯科衛生士 推し！」

担当:大手前短期大学 歯科衛生学科

神田 恵実先生

◇歯科衛生士の仕事とは

◇歯科衛生士の活躍の場

◇歯科衛生士になるために学ぶこと

◇RD テスト

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義を通して、歯科衛生士とは何かを学びました。歯科衛生士は看護師と比べて、圧倒的に人数が少なく、一人の歯科衛生士に対しての求人倍率が 20.7 倍だと聞いて驚きました。今までは歯科衛生士のイメージは、歯科医師のお手伝いをする仕事というものでしたが、歯科衛生士自らが担当の患者を持ち、定期的な検診や歯周病のケアをする仕事だと知り、イメージが変わりました。52 歳の男性と 2 歳の子どもの歯の状態の変化のお話を聞いて、歯科検診を怠ることはとても恐ろしいと思いました。また、口内の虫歯菌の量を調べる RD テストを体験させてもらい、私はリスクが低い青色に近い色になったので安心しました。今回の講義で、歯科医院に通うことの重要性を再認識し、定期健診をしっかりと受診しようと思いました。

私は歯科衛生士の仕事内容を初めて知りました。内科や外科など、ほとんどの医療は何か異常を感じてから病院に行きますが、この仕事は悪くなる前に予防することもできるので、そこが一番の魅力だと感じました。そして、予防のために継続して歯科医院に通うからこそ、患者さんの人生に長く関わることができ、信頼が厚くなっていくと感じました。私は今回の講義で、患者さんは色々な事情を抱えて病院に来ていて、それを見落としてはならないということを改めて学びました。病院に行くことがトラウマの人もいると思うので、だからこそ、寄り添って少しずつ話を聞いたり、どの治療方法が良いか話し合うなど、患者さんの思いに協力して行っている歯科衛生士の方々は素晴らしいと知ることができました。

今回の講義で歯科衛生士とは何かを知りました。私は歯科衛生士と歯医者は同じだと思っていましたが、実際は全く別で、それどころか担当患者を持っていると聞き、驚きました。歯科衛生士が一人で患者に対応することもあり、多い日には 10 人前後を治療すると聞き、歯科衛生士が不足していると思いました。実際に、看護師の数が 128 万人であるのに対して、歯科衛生士は 14 万人しかおらず、しかも、一般歯科診療所の数は 67886 軒で、コンビニの数よりも多いそうです。この人手不足を解消しなければ、大事な時に予約が取れないなどの問題が発生すると思いました。他に学んだことは、日々の検診が大切だということです。私は何年も歯科医院に通っていないので、体験談を聞いて行かなければと思いました。また、患者さんのことをしっかりと考えて治療することが大切だと感じ、このことを看護にも活かしたいと思いました。

今回、「歯科衛生士 推し！」を学びました。私がついに聞いて驚いたのは、昔は歯科衛生士は男性は就くことができない職業で、女性だけだったことです。授業内では、日常の業務について詳しく学ぶことができ、歯科衛生士が独自の患者を持つことを知りました。患者さんの中には幼児も多く、定期的に検診を受けることが大切だと思いました。働く場所もクリニックだけでなく、多くの場所があることを知りました。私は将来、幼児教育の方向に進むことを考えているので、子どもたちが歯を大切にすることを教えることが大切だと思いました。今の歯科衛生士はドクター並みに知識が必要であり、学校でも口腔以外の部分についても多く学ぶそうです。一つ一つの事を大切に行うという意味を学ぶことができました。

◎ 9月5日(火)

「子どもが楽しく、かつ、深く学ぶ授業とは」

担当:大阪成蹊大学 教育学部

丸野 亨先生

◇ぶち模擬授業(小学校社会科)

◇先生になるための大学での勉強って？

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義で、先生方の授業をすることの大変さを知りました。授業内容を説明するだけでなく、生徒の反応を見つつ進めていくことは、視野の広さが大切だと思いました。ぶち模擬授業(1)では、私は画質が古いかどうかで判断していました。しかし、友だち同士で話し合った際に、イオンモールが建設される前と後で判断していることを知り、新しい視点から見ることができました。その後の、ぶち模擬授業(2)では、自分が意識していなくても何か新しく建てられているものがないかを先に確認していて、「楽しく、かつ、深く」を実感しました。たくさんの情報がある中、キーワードを押さえて短くまとめることはとても難しかったです。しかし、まとめを意識することで頭に入りやすくなるため、夏季休業中のヒューマン類型の課題である、新聞を100文字で要約することは大切だと、改めて感じました。

私は今回の講義を受けて、子どもが楽しく、深く学ぶために大切なことを学ぶことができました。まず、一つ印象に残っているお話が、生徒のうなずきや表情を見ながら授業をしているということでした。授業をしながら説明が伝わったのかなど反応を見ながら授業を行っていると知りました。そして、二つの模擬授業を受けさせてもらいました。写真を見て、どれがいつの年代の写真なのかを友だちと話し合いながら考えることが楽しかったです。また、写真の中の何に注目して比べるのか、どこがどう変化しているのか、細かい所を見て判断することなどは難しかったです。しかし、グループや全体で話すことによって、自分一人では気付くことができなかったことや、新しい考えが出てきて、より深い学びに繋がっていると思いました。

丸野先生が講義の始めに「見るところや方向によって答えは変わる」と言われたことに感動しました。自分の意見ばかりに囚われて、異なる意見を「違う」と排除するのではなく、視点を変えて考えの幅を広げ、たくさんの意見に耳を傾けることができるようになりたいと思いました。また、講義の中で、子どもに興味を持ってもらうために「知的好奇心をくすぐる」という事について詳しく教えてもらいました。仮説を立て、意見を言う機会を作ることで、小学生でも無意識に他に転用することができる聞き、友だちと意見交換することの楽しさをもっと知りたいと思いました。そして、私も相手に伝わりやすく納得してもらえるように語彙力を鍛えて、人の意見も多方面から認めることができる、視野の広い人になりたいと思いました。

今回の講義を通して学んだことが二つあります。一つ目は、子どもに対して授業をする時は、子どもの頭に入るように様々な工夫をすることが大切だということです。小学生は先生が話しているだけでは内容が頭に入りづらく、実際に自分で体験をしたり、手で触ったり、自分の目で見たりすることで内容が染みつくのだと分かりました。今回のぶち模擬授業のように、クイズにして楽しみながら授業を行ったり、トランプを使って誰が当たるのか分からないようにドキドキ感を作ったりと、子どもが興味を持つような工夫をすることが必要だと思いました。二つ目は、一人で考えるのではなく、班になって話をしたり、周りの人と話したりして考えることが良いということです。色々な人と意見を交換することによって、自分が気づけなかったことに気づき、人に教えることでより学んだ内容が定着する、ということが分かりました。

◎ 9月12日(火)

「栄養管理が患者の未来を変える」

担当:大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部

井尻 吉信先生

◇栄養食事指導について

◇栄養管理について(チーム医療)

◇Zoomで管理栄養士とつながる

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義で管理栄養士について学び、食事を通じて人と接し、人を笑顔にできる職業だと知ることができました。病院での仕事を中心だと思っていましたが、実際は保育園や幼稚園で給食のメニューを考えたり、栄養食事指導を行ったりと、様々な場面で活躍していることを学びました。栄養指導を行う時は、患者さんが無理なく続けられるような提案をしたり、調理方法を少し変えたりと、一人ひとりに合わせた方法を考えることが大切だと改めて感じました。食事は生まれてから死ぬまで一生必要なことなので、慎重にアドバイスすることが求められる職業だと考えました。また、栄養管理は様々な治療の基本となるため、栄養サポートチームが医療において食事のサポートだけでなく、運動の指導も行っていることも学ぶことができました。

私が想像していた管理栄養士は遠くから患者さんを支えるものだと思っていました。しかし、井尻先生の話聞いて、管理栄養士が色々な治療の基本に立ち合い、実際に患者さんの近くに行って仕事をするが増えていることを知りました。私が印象的だったのは、映像でみた尾張さんという患者さんが管理栄養士のおかげで退院することができたエピソードです。尾張さんが最後に言った「ありがとう」という言葉に感動しました。尾張さんは最初は筋肉がなく、のどにご飯が通らない状態でしたが、管理栄養士が彼に合った食事を用意し、徐々に普通のご飯に近い食事がとれるようになっていました。この時に、管理栄養士が患者さんの元に行き、直接腕や足を触ったり、家族とコミュニケーションをとったりして、人と寄り添っていると感ずることができました。私もそのような看護師になれるよう、コミュニケーションを大切にします。

今回の講義で、管理栄養士は健康を考えた献立を考えるだけでなく、他にも主要な役割がある仕事だと知ることができました。管理栄養士は患者さんと直接話をして、その人の性格や生活習慣、食生活などを聞いて、一人ひとりの患者さんに適した食べ方を教えてあげる仕事だと学びました。今回見た動画で、人間にとって食べ物を摂取することは生きていくために最も大切なことだと改めて気づくことができました。また、肥満気味の人に対しては、無理に食べる量を減らしたり運動させたりするのではなく、まずどのような生活をしているのかを聞き、調理のやり方を変えてカロリーをできるだけ少なくする方法を教えてあげることも学びました。今回の講義を受けて、人と接する仕事はどれも相手の話をよく聞いて、その人に合った対応をすることが大切だと考えました。

楽しそうに、幸せそうにお話をする井尻先生を見て、本当にやりがいのある仕事だと思いました。食事を制限することはなく、一人ひとりの患者さんに合わせたオーダーメイド制のアドバイスをしていると聞き、ストレスなく健康になれるのは良いことだと思いました。また、動画で見た栄養サポートチーム(NST)では、点滴で栄養をとるのではなく食欲を促進させるお茶ゼリーなどで、できるだけ口から栄養をとる方針を大切にしている、患者さんの体力をなるべく落とさないようにしていることが印象的でした。「栄養は色々な医療の根本」と聞き、本当にそうだと実感しました。そして、何より楽しそうに、本当に幸せそうに話す井尻先生を見て、私も先生のように自分の仕事を誇れる人間になりたいと思いました。

◎ 9月19日(火)

「リハビリテーション ～理学療法と作業療法の違い～」

担当: 藍野大学 医療保健学部

酒井 浩先生

◇理学の学び

◇作業の学び

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義で理学療法士と作業療法士の違いについて、主に3つ違いがあることが分かりました。1つ目は目的です。作業療法は「食事」、「入浴」などの道具動作の改善、理学療法は「座る」、「立つ」などの基本動作の改善を手助けしています。2つ目は患者の対象です。作業療法は日常スキルの向上を必要としている人、理学療法は運動機能に問題がある人に対応します。3つ目はアプローチです。作業療法は日常生活をより効果的に行えるように、環境の調整や補助具を提供し、理学療法は身体的な診断などを使用してマッサージやストレッチなどの治療計画を立てます。講義を受けるまで、私は作業療法士と理学療法士は名前が違いだけで、していることはほぼ同じだと思っていました。しかし、学んでいくうちに、異なる専門知識とアプローチを持ち、それぞれ異なるタイプの患者を支援する役割を果たしていることを知り、一人の人間がもう一度その人らしく生きていけるようにするためには、どちらの職業も大切に欠かせないと思いました。

私は今回の講義で、リハビリテーションの大切さを改めて感じました。反射が出やすい人は緊張感が高いことや、力を加えると腕が上りづらくなるなど、自分の体でも知らないことばかりで生活していることを知りました。特に驚いたことは、作業療法士は仕事の幅がとても広いことです。助けてもらいづらい社会復帰や趣味なども老若男女問わず対応していることなどを知り、大変な分、やりがいも大きい仕事だと思いました。また、一度休職した人に対して、作業療法士が安心させて段階を踏ませることで患者さんを社会に戻すという役割は、ストレスを抱えている人が多い今の時代に需要が高いと感じました。

今回の講義を通して学んだことが二つあります。一つ目に学んだことは、理学療法士と作業療法士の仕事の細かな違いについてです。この二つの職業がリハビリテーションに関わるものだと分かっていましたが、どう異なるのかは知りませんでした。理学療法士は基本動作の改善、作業療法士は応用動作能力の改善を学ぶ、似ているように見えても仕事内容は全く異なり、その職業にしかできないこと、魅力、やりがいなども異なるということが分かりました。二つ目に学んだことは、理学療法士と作業療法士は繋がっているということです。理学療法で動きを引き出すリハビリテーションを行った後、作業療法で操作、技能などを改善させるリハビリテーションをすることから、どちらも欠かせない大切な職業だと感じました。

今回は理学療法士と作業療法士の仕事についてお話を聞くことができ良かったです。私の父が理学療法士なのでどのような仕事をしているかは聞いたことがありましたが、作業療法士の仕事については知りませんでした。作業療法士は理学療法士と同じようにリハビリなどをする人だと思っていましたが、実際は違って、筋肉や関節を扱い、基本動作の修復をするのが理学療法士で、その後、手先を器用にしたり、その人らしく生活できるようにするのが作業療法士だと分かりました。ただ動くだけでなく、動作に目的をつけて動かすことで自由に体を動かせるようになることが分かりました。確かに、私も何も無い状態で体を動かすのと、目的があって体を動かすのは違うと思いました。目的があった方が私は楽に動けると感じました。人の心理も使いながらリハビリをすることはすごいと思いました。

◎ 10月10日(火)

「訪問介護・訪問看護ってどんな仕事？」(DVD学習)

「ヒューマン基礎で学んだこと、印象に残ったこと」(発表)

担当:本校職員

◇11月28日の講座の事前学習(DVD学習とアンケートの記入)

◇ヒューマン基礎で学んだことを全員が発表し、発表者以外は審査用紙に記入

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

自分の発表については、単語ごとに覚えて顔をあげることを意識しました。これまでの発表より緊張せずに落ち着いて話すことができたので良かったと思います。しかし、声が少し小さかったと感じたので、もっと堂々と大きな声で発表できるように何度も練習し、自信をつけることができるように努力する必要があると思いました。友だちの発表では、「赤ちゃん先生」の講義について話している人が多かったです。しかし、学んだことや受け取り方が違うことに気づきました。最初の1年生の時の発表よりも、顔を上げてスラスラ話すことができている人が多くて、伝えたいことがより伝わりやすいと感じました。発表を聞いている時は、顔を上げてうなずきをしたりして、良い雰囲気作りができるようにしたいです。

自分の発表については、授業が始まるまで何回も原稿を読み込んだけれど、思っているように喋ることができませんでした。しかし、私なりに伝えたいことは伝えられたので良かったです。次の発表の際は、今回よりももっと成長した姿を見せることができたら、と思います。何回も発表はしており、慣れてくるはずが一切慣れず、緊張ばかりしてしまいます。次はもう少しリラックスしてみんなのことを見渡せるぐらいになりたいと思いました。

みんなの発表を聞いて、大半がコミュニケーションについて話していました。そのため、人と関わる中でコミュニケーションがいかに必要かが分かりました。今回の発表をそのまま入試の時に活用していきたいです。自分の発表の反省点は、言いたいことを忘れてしまったり、緊張しすぎて周りを見渡すことができず、声があまり出せなかったことです。次は改善することができたら良いなと思います。

自分の発表については、少し文章がおかしくなってしまったと思いますが、良い発表ができたのではないかと思います。発表前に「1年」と言ってしまうたり、発表の途中で「保育士」を「看護師」と言い間違えるミスもありましたが、少し緊張がほぐれて、良い発表につながったと感じました。発表する際に身振りや目配りなどもしたかったのですが、余裕がありませんでした。余裕がないということは、スキルがまだまだ足りないということだと思うので、改善できるように努めたいと思います。

みんなの発表を聞いて、感じることは人それぞれで、32通りの思うことや感じ方を知ることができて良かったし、私の考え方にも変化を与えた部分がありました。発表を聞いて、「コミュニケーション」や「努力」、「あきらめない心」、「相手を思いやる心」をヒューマン基礎で学んだ、と発表する人が多く、私もこれまでの講義を思い返しました。私はヒューマン基礎で学んだことは決して無駄にはならないと思います。必ずどの分野でも役立つ土台を教えてもらったので、これからの将来に向けて頑張りたいと思います。

◎ 10月24日(火)

「コード・ブルーから学ぶチーム医療」

担当: 大手前短期大学 医療事務総合学科

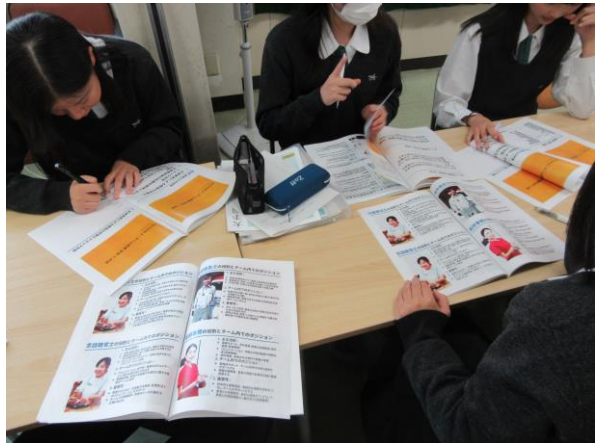
淡島 正浩先生

◇コード・ブルーとは

◇チーム医療とは

◇チーム医療 実践

≪ 講義の様子 ≫



≪ 生徒の感想 ≫

今回の講義で、医療事務の仕事の幅広さを初めて知りました。例えば、オペをするために場所を確保することなどです。今までは、医師や看護師がオペ室の確保や準備をされていたと思っていました。しかし、ドクターヘリやドクターカーから患者さんが運ばれてきて、いち早く治療ができるように医療事務が手配していることを知り、現場になくてはならない存在だと感じました。チーム医療において一番大切なことは、職種が違って必ず共有し合うことだと考えました。そのため、患者さんの状態からリハビリの様子、家族の意見など医療事務のおかげで情報を共有するのに時間が短縮され、的確に物事が進むことを知りました。私は将来、看護師になりたいと考えていますが、どのような病院で働くとしても、お互いの専門性を尊重しながらチームで情報を共有し、患者さんをより良い方向に導くことができるようにしたいと改めて思いました。

今回の講義を受けて、医療について深く学ぶことができました。ドクターヘリは病院が近くにない場所にいる患者さんを病院まで運ぶことが役割だと思っていましたが、実は医師をいち早く救急現場に連れていくことが役割ということを知りました。また、救急車以外にもドクターカーがあることを初めて知り、より多くの命を助けるためにあらゆる方法を使って実現させている日本の医療は改めてすごいと感じました。チーム医療についてのお話では、私が目指している管理栄養士が含まれていることは以前から知っていましたが、患者や患者の家族も含まれていることは知りませんでした。しかし、患者のことをよく知っているのはまぎれもなく家族であることを考えると、当たり前だと思いました。私もチーム医療を視野に入れて、どうすればより多くの人を助けることができるのか、改めて考え直そうと思いました。

今回の講義を通して学んだことが二つあります。一つ目はドクターヘリがあるからこそ、より多くの命を救えるということです。救急車と違い、医師を運ぶことがドクターヘリの一番の特徴であり、いち早く治療を開始することができ、多くの人の命を救うことができるので、必要不可欠なものだと分かりました。その日の天候によって飛べなかったり、時間が決まっていたりと、ドクターヘリにも限界がありますが、それ以上に助けられた人が世界各地にたくさんいると思いました。二つ目に学んだことは、チーム医療の中で大切なことは情報共有を正しくしっかりとすることです。私は将来、保育士になりたいと考えていますが、情報共有することは医療だけでなく、保育の場面でも大切だと学ぶことができました。

医師や看護師を緊急招集するための専門用語に「コード・ブルー」という言葉が使われていると聞き、ほかの人を混乱させないために配慮されたものだと感じ、大変勉強になりました。ドクターヘリは山の中や早期に治療を開始できるという利点がありますが、安全確保も大変な仕事だと思いました。また、チーム医療のお話の際、それぞれの医療従事者が我を出しすぎるのではなく、お互いの専門性を尊重し、協力することで最善の治療ができるようになっている仕組みは、他の事でも応用ができると感じ、私も日々からのコミュニケーションを大切に、曖昧なまま伝えることがないように、実践していきたいと思いました。

◎ 10月31日(火)

「認知症サポーター養成講座」

担当:花里・昆陽里 地域包括支援センター

岡本 美也子先生

社会福祉法人翠松会 伸幸苑キャラバンメイト

- ◇ 認知症サポーター養成講座
- ◇ 認知症者への対応等の個人ワークとグループワーク・発表

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

認知症という病気について、「すぐに忘れてしまう」「なかなか覚えられない」という知識しかなく、詳しい身体の仕組みは知りませんでした。認知症は脳の細胞が壊れたりして起こることは知らなかったので驚きました。また、脳の障害が起こった部位によって認知症の症状が変わることも驚きました。認知症は年をとることで発症しやすいと思っていましたが、アルツハイマーやレビー小体型認知症など年齢が関係のない病気もあることを知り、少し恐怖感を覚えました。また、認知症の方には、強い口調で言うのではなく、覚えられなくても一緒に行動する、一緒に考えることで、不安を減らし、安心して暮らせる地域づくりにもつながることを学びました。私も少し勇気を出して困っている方がいたら声をかけてみようと思います。

今回の講義で認知症サポーターについて学びました。超高齢化社会に突入し、高齢者数の増加にともない、認知症の人の数も増加しています。現在、認知症の人の数は500万人を超えていると知り、自分が思っていた以上に身近なものだと感じました。講義を受けるまで認知症サポーターはとても難しいイメージがあったので、自分がうまくできるのか不安でしたが、偏見を持たずに認知症の人や家族を見守る応援者として、自分のできる範囲で活動すれば良いと学びました。これからは認知症と思われる人に出会ったら、そのままスルーするのではなく、声をかけたり、周りの大人に知らせようと思いました。話を聞くとときも否定せずに、相手に視線を合わせて笑顔でいることを心掛けるようにします。

私は今回の講義で認知症の方への対応の仕方について学びました。グループワークで話し合った内容が印象的でした。認知症の方への対応、その時の気持ち、これからの自分たちにできることについて話し合いました。DVDで学んだ内容も含めて、みんなでまとめてしっかりと発表することができました。対応の仕方だけでなく、それをされた認知症の方がどのような気持ちになるのかまでを話し合ったため、よりたくさんの意見を取り込むことができました。講義終了後には、認知症サポーターのカードをいただきました。

今回の講座を受けて、まず、認知症サポーターという言葉について知りました。子どもから高齢者まで、会社や学校でも養成講座をしていると聞き、自分の身近な場所で受講することができると、より多くの人に認知症について詳しく知ってもらえるのでとても良いと感じました。認知症になる原因は高齢者になったからだとは今までは考えていましたが、病気で引き起こされるということを知りました。認知症の症状は二つに分けることができ、行動・心理症状は周りの人の対応によって改善されるかもしれないので、症状が進むことを待つだけではいけないと感じました。どのようにすれば進行を抑えることができるのかをしっかりと考え行動することにより、本人だけではなく、周りの人も安心できると思いました。

◎ 11月7日(火)

「保育の内容について～環境指導と健康指導～」

担当: 聖和短期大学

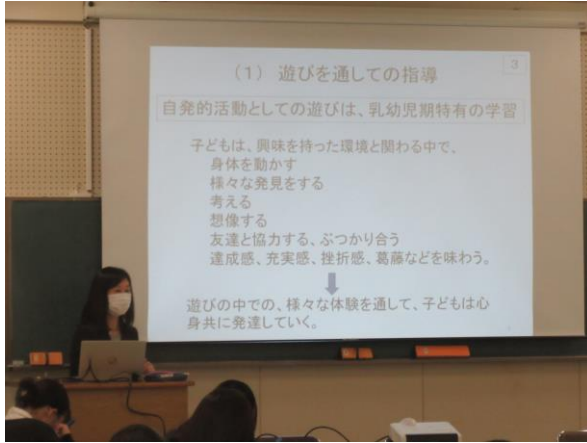
持田 葉子先生

◇ 保育における「指導」の意味

◇ 保育内容の5領域とは

◇ 保育内容「環境」と「健康」

≪ 講義の様子 ≫



≪ 生徒の感想 ≫

今回の講義を受けて、保育における「指導」は、小学校以降の指導とは異なるということを知りました。小学校以降の指導は、授業を通して学ぶのに対して、保育の指導は「生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的、具体的な体験」を通して学ぶということを知りました。そして、遊びの中での体験で心身ともに成長すると聞き、私も幼稚園児の頃は痛い目にあってこれは危ない行動だと気づくことや、積み木はブロックを「こうひっつけたらこの形になる」ということや、モノの数え方も遊びを通して体が覚えたと思い出しました。保育にも5つの領域があり、それぞれの要素に基づいて経験していくということも学びました。保育者は子供たちのモデルとしての存在で、言葉のかけ方に注意し、子供が自主的な活動をするサポートをする存在だということを知りました。

今回は保育の環境指導と健康指導の点からの講義でした。私が印象的だったのは、遊びが子供の成長につながるということです。積み木から想像力や協調性、表現の仕方、手や足の運動などの成長をすることができます。ただ、子どもが楽しめるような遊びをしているのだと思っていましたが、子どもたちのことをしっかりと考えて、遊びを提案しているのだと分かり驚きました。保育者の役割は、子どもが興味や関心をもって自発的に遊びたくなるような環境づくりや子どもの発達や遊びの状況に応じて適切な言葉をかけ、そしてどのような「ねらい」「ねがい」をもって環境を作るか、その「ねらい」を達成するために、どのような内容を子供たちに経験してほしいかという目安が必要です。この目安を作ることは、看護師にとっても患者さんにどのように接するか、患者さんが求めているのは何かを考えることにつながります。今回学んだ目安や目標、ねらいを作ることを意識して、患者さんにより良い看護をすることができたら良いと考えました。

私は将来、保育の職に就きたいと考えているので、今回の講義はとても興味深かったです。また、保育者という役割が、子どもたちの成長にどれだけ重要な役割を担っているかを学ぶことができました。持田先生は、遊びの中で子供たちがどのような体験をしているか、どのような風に成長しているのかを見るのが大切だと話しておられました。子どもたちは遊びの中でたくさんのことに気づき学んでいくため、子どもたちが自ら興味関心を持ち、遊びたいと思える環境を作ることが保育者の役割であり、子供の成長につながると考えました。

環境作りの方法はたくさんあり、保育内容の5領域の一つである「環境」では、自然と触れ合ったり、新しい発見をすることで、好奇心や探究心を育むきっかけとなるそうです。確かに、インターンシップで訪問した保育園では、庭でトマトや花を育てていたり、虫も飼っていました。トマトを収穫した時、子どもたちは不思議そうに触ったり、匂ったりしていました。保育者は子どもにとってロールモデルであり、子どもたちの可能性を引き出すことができる重要な役割だと改めて学ぶことができました。私も子供たちの成長にたくさん関わることができる保育士になるために頑張っていきたいです。

◎ 11月14日(火)

「医療の仕事について」

担当:森ノ宮医療大学

石塚 充弘先生

◇ 医療者の魅力とは

◇ これらかの医療者に求められるもの

◇ チーム医療

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回、私は医療の講義で医療の仕事についてのお話を聞きました。医療には予防医療、終末期医療、全人的医療の3つの意味があると学びました。それぞれの治療方法は異なっているので、その人の性格や病状に合った治療を提供することがとても大切であると改めて実感しました。医療の仕事はミスが許されず、不規則でハード、高いストレスなどの変な点がありますが、病気やケガで苦しんでいる人を助けられる、健康やQOLの向上に貢献できるなど、素敵な魅力がたくさんあると思いました。また、「向上心」、「継続力」、「好奇心」、「人間力」、「協働性」、「高い志」、「熱い思い」が大切であることも知りました。今回の講義で医療関係の仕事について詳しく知ることができ、看護師になりたい気持ちが前よりももっと強くなりました。

医療とは医術や医薬を用いて病気やケガを治すことだと思っていたけれど、「医療」の意味はもっと広義であり、予防医療や終末期医療、全人的医療などがあり、たくさんの治療方法やケアの仕方があることを知りました。医療や資格や仕事としての魅力はたくさんあり、医療は人の役に立てる仕事だと感じました。これからの医療に求められるものは、患者さんとご家族との関係を築く力、医療者間の連携する力、コミュニケーション力、人間力が求められることが分かりました。この4つの力をまとめて、「相手の立場に立って物事を考えられる力」が必要だと知り、私は将来、保育士になりたいと考えているので、この医療者に求められるものは保育士にも必要なことだと感じました。

今回は医療の仕事について学びました。私が印象的だったのは、医療者には医療の高度化に対応するための確かな知識と技術が必要であり、また生涯に渡ってアップデートしていくことが必要だということです。私の看護師になった時のゴールは、技術や知識を身につけ患者さんに寄り添う看護をすることでした。しかし、そこからまたアップデートしていくことで、患者さんとの信頼関係を築くことができるのだと知りました。また、石塚先生はチーム医療の要であり、患者さんの一番身近な存在で深くかかわることができ、各専門職の「橋渡し役」だと言っていました。患者さんの中には治療に対する自分の思いや不安などを上手に伝えられない人もいます。そのため、患者さんに一番近い場所で医療行為に携わる看護師が、チーム内の医療スタッフに情報提供する必要があります。改めて、医療従事者は人の命に関わる仕事なので、とてもやりがいがあると思いました。

今回の講義で医療の世界の魅力と厳しさを知ることができました。私は今まで、医療とは病気やケガを治すことが一番の目的だと思っていました。しかし、延命治療をしている方や、目には見えない心理的な治療が必要な方もいます。そのため、常に例外が発生し、知識をアップデートしなければならないことを学びました。特に驚いたことは、コミュニケーション力の高さは、話す力よりも聞く力が重要だということです。一見楽しそうに話をしている人を見ると、話し方が上手だからだと思ってしまいますが、相手の立場に立って親身に話を聞くことができる聞き上手になることで、より良い情報と信頼を得られることを知りました。

◎ 11月21日(火)

「地域防災と共助 ～避難生活編～」

担当: 関西国際大学 経営学部

田中 綾子先生

◇ 地域で助け合う共助の重要性

◇ 救命現場での選択

◇ 避難所開設ゲーム

≪講義の様子≫



≪生徒の感想≫

今回の講義を通して、私は医療現場における選択の厳しさについて知ることができました。助かる見込みのある人を優先するという意味では、心肺停止状態の人に救命措置を行わないことは有効なことだと思いますが、助けないと決める側も、心肺停止状態の人の家族や友人の側もどちらもとても辛いと思いました。したがって、医療従事者には精神力や気持ちの置き換えができる力が必要だと思いました。途中に行ったゲームでは、自分たちでその現場を想像しながら考えてみて、自分がこれだと思った意見と反対の意見を持つ人や、Yes・No は同じでも違い意見を持つ人がいて、どの考えでも納得できる部分があり、正解のない問いほど難しいものはないと強く感じました。

今回の講義を通して学んだことが二つあります。一つ目は、災害が起きた時には、自助や公助だけでなく、地域で助け合う共助が大切だということです。自助と公助だけでは助かる命も助けることができなったり、高齢者や子供など自力で避難できない方の避難が遅れてしまったりと、この二つでは補えない部分があります。そのため、近所同士での助け合い、高齢者や子ども、障害者などへの支援など共助が大切であり、より多くの人の命が助かると分かりました。二つ目に学んだことは、災害時に活動する DMAT という災害医療チームがあるということです。災害時に迅速に行動ができるように、たくさんの訓練を行い、災害死を減らすために活動しているチームであることを知りました。災害時に必要不可欠な存在だと思いました。

今回の講義で、災害が起こった際の過酷さを改めて知りました。私は今まで、大地震などで救出している人は防災専門機関がほとんどだと思っていました。しかし、現場は時間との勝負で、地域の人たちと助け合う共助がなければ助からない命もあることを学びました。特に驚いたことは、物流がスムーズに進むことの難しさです。製造者、運ぶ人、モノ、道、店などのすべてが無事でなければ品物は届かず、普段から当たり前にあることだと思わないようにしなければならぬと感じました。私は避けられた災害死ほど悔しいことはないと思います。しかし、後悔しないためには苦しい現実と向き合い、シミュレーションして改善することが大切だと知ることができました。

阪神淡路大震災のお話の際、普段は助けてくれる公助の方も同じように被災しているというのを聞き、当たり前ながら少し驚きました。自分も被災して大変だと思うのに、別のだれかのために動くんんで私には絶対できないので、本当に尊敬しています。そして、もし私が被災したら、「なぜ助けが来ないのか」と思わず、今回のお話を思い出し、できることは自分や周りとは協力してやろうという心がけを忘れないようにしたいです。また、講義で津波のお話を聞き、流れてくる水の中には何が混ざっているか分からないことを学び、納得しました。阪神淡路大震災で起きた悲しい事実を忘れず、助け合えたことや今考えると良かった点などを語り継いで、全員が60%の備えができていく社会にしたいと思いました。

◎ 11月28日(火)

「訪問介護・訪問看護ってどんな仕事？」

担当：ステップこはま24hケアステーション

廣木 聖子先生, 吉川 由紀先生

- ◇ 訪問介護の仕事と実際
- ◇ 訪問看護の仕事と実際
- ◇ 体験してみよう「トロミ」飲料、高カロリー食品

《講義の様子》



《生徒の感想》

今回は訪問介護と訪問看護について学びました。訪問介護は家を訪問することで日常生活を支援したり、買い物や昼食の準備などの生活援助を行っていることを学ぶことができました。訪問していないときは他のスタッフからその方についての情報を聞き、あらかじめ利用者さんについて知り、実際に訪問した際にスムーズにサポートができるように工夫していると知ることができました。訪問し、介護していく中で、利用者さんの気持ちに寄り添うことが大切だと知りました。高齢者であっても困っていることや考えていることは人それぞれであるため、その方に合わせた支援を行うことが一番のサポートだと知ることができました。

今回、訪問介護と訪問看護についての講義を受けて、仕事内容、仕事をする上で大切なことについて知ることができました。ヘルパーは排泄介助や食事介助といった身体介護や買い物のお手伝いなどの生活をする上での援助といった生活援助を主にしているということを知りました。また、時間通りにいくことにより、利用者さんの安心と信頼に繋がるため、待っていている思い、相手の立場になって考えることが大切だということを知りました。訪問看護では、年齢に制限なく健康相談や日常生活の看護を行っていました。その中で、様々な利用者さんと関わり、その人の人生を豊かにでき、役に立つことがやりに繋がることと改めて感じました。また介護や看護を行う中で、冷静に対処することはもちろん大切なことであり、利用者さんとの信頼関係では、ひとくりにするのではなく、その人について考えて接し、何をしてほしいのかを想像してその思いを伝えることがコミュニケーションをとることの大切さだということを知りました。

ヘルパーさんは利用者さんの家に訪問し、その人のニーズに応じて決められたことを、決められた時間の中で行う職業だと知りました。決まった時間に訪問することが利用者さんの安心、信頼に繋がるということを知り、時間を守るという当たり前のことが改めてとても大切なことだと感じました。少しでも利用者さんの要望を叶えることができるように、ヘルパーだけでなく、医師や管理栄養士、薬剤師などの多職種と連携し、利用者さんが一番納得のいく方法を考え、案を出し、実際にやってみることで利用者さんの笑顔が見られたり、信頼関係を築けたり、それがこの仕事のやりがいだと感じました。

今までヘルパーさんや訪問看護の仕事内容についてあまり知らなかったため、今回の講義を通して新しいことをたくさん知ることができました。ヘルパーの仕事は移動範囲が広く、スケジュールの割り振りも多いため、時間を守る人や移動を気にしない人が向いていると分かりました。吉川先生の話の中で、最初はよく怒られたりしていたけど、真正面から向き合うことで思いが伝わるという言葉が印象に残りました。何よりも廣木先生も吉川先生も楽しそうに話していることが印象に凝りました。本当にこの仕事が好きで楽しくやっているのだと伝わってきました。また、できるだけ利用者さんや患者さんの希望にそった治療ができるよう、多職種連携が大切だと学びました。

◎ 12月5日(火)

「ディベートⅠ～導入～」

担 当:本校教員

◇ディベートとは、ディベートの必要性・目的・流れ、ディベーターの心得・注意事項、審判の心得

◇NHK 高校講座『マイクロディベートをやってみよう』を視聴

◇マイクロディベート:3人1組、バタフライチャートを使用し、考えをまとめる。

「好きなものは最後にする(食べる)べきだ」「洋画は吹き替えて見るべきだ」「ペットにするなら犬である」

≪ 講義の様子 ≫



◎ 1月16日(火)

「ディベートⅡ～論理の構成・情報収集～」

担 当:本校教員

◇ディベートのための準備:

各テーマについて情報収集し、班ごとに情報を分析する。資料をまとめ、作戦会議を行う。

◇テーマ

「日本は出生前診断を法的に禁止すべきである」

「日本は積極的安楽死を法的に認めるべきである」

「日本は教科書をタブレットにすべきである」

「日本は少年事件であっても実名報道すべきである」

≪ 授業の様子 ≫



◎ 1月30日(火)

「ディベートⅢ～実践～」

担 当:本校教員

《ディベートの様子》



《生徒の感想》

ディベートを振り返って難しいと感じました。事前に準備をしても、予想していなかった意見や質問があったりと、詳しく隅々まで調べて準備すればよかったと後悔の気持ちもあります。他のテーマのディベートを見て、反ばくや最終弁論のレベルが高いと感じました。準備の段階からインターネット上でさまざまな意見が言われていて、どの意見も説得力があって、見ているだけで知識が少し増えました。私は質疑の担当でしたが、本番直前までイメージトレーニングをして準備していたにも関わらず、本番では質疑ではなく反ばくをしてしまい、後悔と恥ずかしさがありました。今回、初めてディベートをしましたが、準備から本番まですべてが難しく、ディベートの魅力に気づくことができよかったです。

ディベートのテーマが「日本は出生前診断を法的に禁止すべきである」の肯定側と知ったとき、本当は否定側の方がよかったと思いました。しかし、肯定側として勝つために様々なことを調べると、出生前診断を受けて後悔した人やリスクを伴うことなど、メリットばかりではないことを感じました。様々な立場になることの必要性を感じ、論理的に話せるようにデータを活用することが重要だと思いました。ディベートの本番では、その場で質問を考えることはとても難しいと思います。だからこそ、相手の意見も調べて考え、事前準備しておくことが大切だと分かりました。異なる意見を理解しようとしめない人が多い世の中だからこそ、全力で自分の任された意見を主張する、というディベートは、今の世の中に必要だと感じました。また機会があれば、是非もう一度、ディベートをしたいです。

今回のディベートで、社会問題を深く知り、考える機会になりました。調べていくうちに、そのテーマのメリット、デメリットを知り、今後、物事を決める際、メリット、デメリットを考え、自ら選択していくことが大切だと思いました。ディベートを通して、自分が思っている意見とは違う意見を聞き、違う視点を知ること、テーマについてより深く考えることができました。自分が思っていることを言語化することは難しかったです。相手が話していることをメモしながら、次に何を話すのかを考えることが一番難しかったです。保育士は、子どもの話を聞きながら、周りを見て、次にどう動くのかを考えることが必要だと思うので、今後、授業を受ける時や、友達と話す時は、相手の話をよく聞き、相手が何を思っているのかを考えることを意識したいです。ディベートは負けてしまったけれど、人の話を聞くことの大切さや、自分に意見を分かりやすく伝える難しさを知ることができ、今後に向けての課題を見つけることができました。

ディベートは、相手を論破したり、口喧嘩になっていしまうイメージがありましたが、実際にディベートをしてみて、自分たちの意見をしっかり伝え合い、聞いてくれている人たちが納得してくれるように話すことが大切のだと感じました。ディベートの難しかったことは、相手の意見を聞き、それをまとめながら質問を考えることです。質問を考える時間も1分しかなくて焦りましたが、班のみんなで協力してディベートを進めることができましたのでよかったです。今回、私は立論と、質問に対する答弁を担当したので、またディベートをする機会があれば、質問する役割や最終弁論も体験したいと思いました。

◎ 2月6日(火)6限

「キャリア支援部から」

担当:本校キャリア支援部 前田 芳博先生

◇ヒューマン類型で身につけている力はなに？

◇2023年度の入試結果から…受験パターン、入試時期、試験内容

《講義の様子》



《生徒の感想》

ヒューマンで身につけた力はほとんどの仕事で活けると、改めて考えることができました。コミュニケーション力はどのような仕事でも絶対に欠かせないものの一つですし、仕事を円滑に行うためにも今のうちからもっと伸ばしていきたいと思いました。入試時期なども早目に調べ、入試の知識を広げて、自分の将来の為に後悔しない道を選びたいです。

先生のお話を聞いて、ヒューマン類型では他のクラスと違って、早い段階から専門知識を学んでいることや文章を書く、発表するなど貴重な経験をさせてもらっていることを改めて感じました。総合型選抜は、6月から始まる大学もあるので、志望校を決めて、入試方法や面接などの準備を今から始めておく必要があることが分かりました。まずは学年末考査に向けて、気を引き締めて取り組みたいです。

今回のお話を聞いて、志望校についてしっかりと調べておくべきだと思いました。また、今回、ヒューマンの講義で身につけてきた力について考えてみた時に、「文章を書く力」「まとめる力」「コミュニケーション力」など、他の類型では学ぶことのできないことをたくさん身につけてきたのだと改めて実感することができました。3年生になると、ヒューマンクラスは分かれてしまうので、ヒューマンで身につけた能力を発揮して、新クラスでも役に立ちたいと思いました。

今回の授業では、ヒューマン類型で学んだことを復習できる良い機会でした。自分が身につけた力は何なのか、それはA1にできることなのかを考えることができました。ヒューマンで学んでいる仕事の全てがA1が発達してもなくならない仕事であることも分かりました。

今回、先生の話聞いて、真剣に進路のことを考えようと改めて思いました。また、この2年間を通して学んできたことを考え直す良い機会でした。勉強を頑張ることはもちろん、日頃からの自己管理や、自己PRを探しておくことが大切だと聞き、体調管理に気をつけようと思いました。残り少ない期間で、自分にできることをやっていきたいです。

今回の講義で受験に向けて焦らないといけないと感じました。1年後に自分が希望の進路に進めている姿が想像できません。過去は変えられないので、定期考査など今まで以上に頑張ろうと思いました。体調管理、姿勢、勉強など、今からできることをしていこうと思います。特に姿勢は、普段から気にしていないと、面接の時だけ完璧とはいきません。授業中、姿勢を良くするなど、これから意識して生活しようと思います。

◎ 2月6日(火)7限

「3年生ヒューマン担任から&先輩からのメッセージ」

担当:3年2組 担任 中村 隼人先生

◇先輩からのメッセージ(看護、養護教諭、栄養)

◇担任から見た先輩たちの戦い

◇進路実現に向けて～ヒューマン類型の使命～

《講義の様子》



《生徒の感想》

先輩方からの話で、今からやっておくべきことを聞いて、自分には時間が限られているのだと実感できました。進路先は違っても、先輩方が言っていることは同じことが多く、オープンキャンパスに行くことや、普段からの生活で意識することが何よりも大切だと思いました。3年生に向けて頑張っていきたいと思いました。

3年生の先輩方の話を聞いて、面接練習は早く始めた方がいい、オープンキャンパスには何回も行った方がいいなど、やっておいた方がいいこと、やっておいてよかったことを知ることができました。また、1年生からの2年間で、ヒューマンの講義で得た知識を面接で使うことができたり、志望理由書に書くことができたりと、様々な場面で活かすことができると知り、今まで学んだことをしっかりと活用していきたいと思いました。そして、困った時や行き詰った時には、周りの人を頼り、助け合い、入試を乗り越えていきたいと思いました。

今回、先輩からのメッセージを聞いて大切だと思ったことは、「メモを大切にすること」でした。どの先輩からの話でも、メモを取ることを大切に言っていました。それを一日の終わりに確認して、暗記することが大切だと感じました。そこから復習することも大切だと感じました。

先輩からのメッセージを聞いて、自分に響く言葉がたくさんありました。英単語の暗記や面接の練習は春休みから始めようと思っていましたが、早く取り組むことで周りとの差をつけることができる、また、目標をたてることでモチベーションになることを知りました。ヒューマン類型で学んだことを活かせるように、面接練習などを頑張りたいです。

入試方法は学校によって様々で、講義を受けてその感想をレポートに書くという入試方法があることに驚きました。先輩方のメッセージでは、ヒューマン類型は入試に必ず役立てることができる、大きな強みであることを改めて感じました。また、先輩は入試の面接で、「知り合いの長所」を質問されたと聞き、驚きました。面接の質問はいくらでもあるため、予想できることから準備し、とにかくたくさん練習することが大切だと感じました。

今回の講義を受けて、自分の目標が明確に決まりました。3年生の先輩からメッセージで共通していたことは、自分に今何が必要で、何をすべきかをしっかり考えて行動していたことでした。私も見習って自分の理想に近づくことができるように、自分と向き合おうと思いました。将来について考え、今からでも自分に必要なことを頑張ろうと思いました。

◎ 2月13日(火)

「面接指導」

担当:本校教員

◇「高校生のための面接対策 DVD」を視聴

◇面接のための準備を行う。(自己PR、長所・短所、学校生活で頑張ったこと、志望理由 等)

《講義の様子》



《生徒の感想》

面接対策 DVD を見ました。面接の動画を見て、間違えているところを見つけるとき、「挨拶ができていない」や「控え室での態度」など、当たり前なことはすぐに見つけることができましたが、「ら抜き言葉」や「略語」など、普段話すときに使っていて、聞きなれているものは全く気づくことができませんでした。今回気づけなかった言葉遣いは面接本番でも気づかずに使ってしまうと思うので、練習をするとき、特に意識したいと思いました。集団面接では、協調性、自主性、コミュニケーション能力の3つが大切で、他の学生の発言を聞いての意見を求められることがあるので、自分のことでいっぱいにならないように、たくさん練習を重ねて、面接に慣れていきたいと思います。

面接は私が思っていた倍以上、難しいものだと知ることができました。扉を開けて座るだけでも所作があることを知り驚きました。また、言葉遣いがとても難しいと感じました。準備してきたことをそのまま言うのではなく、キーワードで覚えることが大切だと感じました。DVDを見て、しっかり準備することが合格へ一番近づくこと知り、今から自分の長所や短所、自己PRなど自分を知り、向き合うことが大切だと思いました。志望校の情報を調べつくすことも必要だと思いました。今回の講義で、受験に向けての準備が足りないと感じ改めて実感する機会になりました。後悔しないよう、面接準備を頑張りたいです。

私は自己PRや志望理由など、実際に文章にしてみるとなかなかまとまらないと感じました。面接では結論を簡潔に話すだけだと思っていました。しかし、結論、理由、意志、結論の順で、相手が想像しやすいように話すことが大切だと初めて知りました。今すぐ思いつかなくても、高校生活で学んだことはたくさんあります。そのため、学んだことや成長できたことを面接や小論文で活かせるように何度も練習して、引き出しを増やしておきたいです。そして面接では、内容だけではなく態度も見られるため、今のうちから入室の仕方などを動画で見返しておきたいです。わたしは入試で面接を使うため、自分のことを話せるように意見を固めておきたいと思います。

私は今回の講義で、面接は第一印象が大事だということを再認識しました。高校受験の時に必死になって練習しましたが、DVDを見ると面接の間違いを半分ほど見つけるのがやっとでした。話し方など忘れていたこともたくさんありました。新たに知ったことは、話す内容の構成です。結論を最初に言うことで、自分の伝えたいことを明確にし、話がきれいにまとまり、説得力が増すと考えました。自分の長所や短所、自己PRなど書くとすると手が止まってしまったので、日頃から長所や短所を探し、メモしておくのが良いと思いました。面接では敬語を使わないといけないので、発表の時などに練習しておこうと思いました。敬語が自然に出るように頑張ります。

◎ 2月20日(火)

「1年間を振り返って」

担当:本校教員

≪1年間の反省・感想・印象に残ったこと≫

ヒューマン基礎の授業を受けて多くのことを学ぶことができました。私の将来の夢である看護師についての話だけでなく、福祉や保育などの講義を受けて、人に関わる仕事について深く知ることができたと思います。印象に残った講義は、「コミュニケーションと手話」です。実際に手話を教えてもらったり、耳の聞こえない方からの講義を受けて、相手にどう伝えたいか、相手の立場になって考えることの大切さを改めて学ぶことができました。これは相手が誰でも大切なことで、この講義だけでなく、ヒューマン基礎で身につけて人と関わることの大切さや楽しさを忘れずに将来の夢につなげたいと思いました。

この1年間、様々な講義を受けてきて、多くの知識を身につけることができました。自分が興味のある保育・教育分野はもちろんですが、それ以外の分野についての知識も得ることができ、この1年で自分の視野を広げることができました。講義を受けるまでは、保育・教育の分野には、看護や福祉などの分野は関係ない、ただ人と関わる職業であるだけだと勝手に思っていました。ですが、それは違い、どの分野もどこかで必ずつながっており、それぞれの分野で得た知識は必ず自分が進む保育の道に役に立つことだと気づくことができました。反省点としては、自分から積極的に発表や質問ができなかったり、メモを取るのに必死になって、話を聞き逃してしまったりしたことです。この反省点をそのままにせず、しっかりと改善できるように頑張ります。

1年間ヒューマン基礎の講義を受けて、将来について深く学ぶことができ本当に良かったです。編入時に、将来なりたい職業が2つあり、とても悩んでいました。しかし、ヒューマン基礎の講座を受けていく中で知識が増えて、幼稚園教諭がどのような職業なのかを知ることができ、しっかりと将来を見据えることができました。もしヒューマン類型に入っていなかったら、今も2つの職業についてとても悩んでいたと思います。また、すべての講義で思ったことは、ヒューマン類型で学んだことは関連しているということです。看護・医療・教育・福祉のすべての職業で人と関わり相手を思うことが大切だと理解することができました。オープンハイスクールでは、多くの中学生にヒューマン類型の良さを伝えることができたので良かったです。

私が一番印象に残っていることは、介護福祉の講義です。私の曾祖母は訪問介護、老人ホーム、介護施設と介護を受けていました。なので、ヘルパーさんの仕事を見ていたことがあったので、ある程度知っているつもりでした。ですが、お話の中で仕事にあたり気をつけていることや考えていることを聞くと、介護する中で相手のことを一番に考え、一人一人に寄り添っていることを知り、驚いたことが印象に残っています。ヒューマン基礎の講義では、自分の知っている職業から、知らなかった職業まで、多くの方から話を聞くことができました。私の目指している職業でなくても、つながっていると改めて分かりました。貴重な経験になったので、進学や就活などで活かしていきたいです。

ヒューマン基礎の特別講座を受けるごとに、レポート提出がありました。毎回手を抜かずに一生懸命書いていたつもりでしたが、評価がBだったときは、誤字・脱字があったのか、何が良くなかったのかとレポートが返却されるたびに振り返りました。文の内容が重なっていたり、口語を使ってしまっていたりと改善する部分がこの1年はたくさんありました。そのことを踏まえて前回のレポートの改善部分を今回のレポートでは意識して書こうという気持ちがあふれてきて、ヒューマンのレポートだけでなく、いろいろな教科のレポートや感想文では、この一年で蓄積してきた言語力や文章の構成力を活かすことができました。

ヒューマン特別講座で一番印象に残っている講義は「栄養管理が患者の未来を変える」をテーマにした講義です。私が診療情報管理士が管理栄養士か悩んでいた際、この講義を受けて、私が目指している「将来につながる今を、支えられる人になる」という思いと一致していると感じました。この講義を受けて私は、患者の未来を支えられる管理栄養士になると決めました。

私は1年間ヒューマン基礎の授業を通して、人と関わるうえで一番大切だと考えているコミュニケーションについて多くの知識を身につけました。ヒューマン基礎の講義では、すべて共通してコミュニケーションを必要とする職業について学びました。1つ1つの職業によって、話し方や接し方は大きく変わってくると思います。相手により様々な工夫をしなければ上手く伝わらなかったりと難しい点が多いですが、同時にコミュニケーションについて興味を持ちました。私が希望している職種もコミュニケーションが欠かせないため、1年間を通して大切なことを学ぶことができ良かったです。

私が1年間で印象に残った講義は2つありました。1つ目は赤ちゃん先生です。私は今まで幼い子どもと触れ合う機会がなかったので、当日は楽しみと不安を抱きながら登校しました。実際に子どもと遊ぶと、どうすれば喜んでくれるのか、何を伝えたいのかが全然分からず、事前に接し方など赤ちゃんについて調べたらよかったと思いました。ですが、赤ちゃんが喜んだり、楽しんでいる姿を見ることができ、自分まで嬉しい気持ちになりました。そしてこのような大変なことを毎日してくれていた母にも感謝し、偉大さを感じました。2つ目は、手話とコミュニケーションです。耳が聞こえなくて大変だったことを実際に経験した人から聞く話は重みが増して聞こえました。私は健常者だけではなく、障害を持っている人も住みやすい国になればいいと思いました。

この1年間、ヒューマン類型でみんなと一緒に活動できて良かったです。将来の夢が同じ人がすぐ近くにいたこと、たくさんの専門的な学びに触れることができたことです。一番印象に残っているのは「子どもが楽しく、かつ、深く学ぶ授業とは」の講義です。この講義では、体験して学びと理解しやすいということ、私達が実際に体験して学び、深く理解できました。さらに相手の反応を見て、説明を加えたり、状況に応じて子どものための選択をすることも大事だと教わりました。

私が一番印象に残っているのは「赤ちゃん先生」の講義です。実際に赤ちゃんと関わり接することで、講義だけでは知ることのできなかつたやりがいや大変さを感じることができました。言葉が通じないからこそ、思いを理解しようと努力すること、子どもの気持ちになって考えてみるのが重要だと改めて感じました。また、すべての講義において人と関わることの大切さを体験を通して学ぶことができました。人と関わる職業に就くからこそ、日頃から言葉遣いや接し方に気をつけることで将来の自分のためになると思うので、見直すようにしたいです。

ヒューマン基礎の講義を受けて印象に残っていることは、どの職業に就いても周囲の人とのコミュニケーションや協力が必要であるということです。医療職では、患者や医療関係者との協力、教育関係では生徒や保護者とのコミュニケーションがとても重要であることを学びました。また、耳の聞こえにくい方や高齢者の方と話す際には身振り手振りをしたり、子どもと接する際には視線を合わせて話すなどの工夫をすると良いと知り、とても興味深かったです。

私が印象に残った講座は「コミュニケーションと手話」です。手話だけでなくジェスチャーや筆談でも会話ができることを知り、コミュニケーションを取ることの幸せを感じました。先日、ボランティア部の活動で子ども食堂に参加したとき、聴力障害者の方がいらっしゃいました。手話は上手く使えなかったけれど、身振りで何とか伝えることができて、これからは手話でスムーズに会話できるようになりたいと感じました。ヒューマン基礎の講義は、受ける度に人との関わり方の大切さと難しさを知っていきました。これから先も、人と関わっていく上で難しいと思う場面も必ずあると思うので、今まで授業で学んだことを活かして、積極的に取り組み続けていきたいと思います。

《来年度に向けての意気込み》

1年生の時から、総合ヒューマン類型で講義の感想や授業内容のメモをどのように書いたら伝わりやすいのか、見せやすいのかを工夫していたので、来年度も授業ノートの書き方や提出物を丁寧に見やすく書くことを意識して何事にも真面目に取り組みたいです。また大学受験では、小論文や面接があるので、文章を書く力をつけたり、面接で自分の意見をしっかり話せるように練習します。

《なんでも一言》

ヒューマン基礎の講義を1年間受けて、情報をまとめる力と文章を最後まで書く力、自分の意見を発表する力がついたと感じます。また、提出物の期限を守ることの重要さを学ぶことができました。ヒューマン基礎で身につけたことを3年生でも活かしたいと思います。

ヒューマンクラスの方々は皆、優しくて気遣いができるため、優しく接してくれたのが本当に嬉しくて、自分もこの人たちのような人になりたいと思いました。しかし、人見知りな部分が自分の中にはあって、来年のクラス替えで友達がつくれるかとても心配です。が、この一年間ヒューマンの方々と関わってきて、人と接することの大切さを知ったので、自分から頑張って話しかけていきたいです。
